礼文の教育

平成２９年３月発行
礼文町教育研究会
●事務局：香深井小学校
●編　集：町研広報部

心豊かに学び　ふるさと礼文に夢と誇りをもって
21世紀をたくましく生きる児童生徒の育成

～すべての子どもたちの自立をめざして、保小中高の教育連携を創造しよう。

文化祭・美術展　美術の部　大賞

船泊小５年　高道　茉

「礼文の教育」発刊に寄せて

礼文町教育研究会
会長　岸　田　光　正（船泊中学校）

平成 28 年度を終えるにあたり、今年も町民の皆様に『礼文の教育』をお届けすることができました。町民の皆様には、日頃より、町内の保育所や小中学校、高等学校の教育活動に多大なるご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

礼文町教育研究会では、昨年度、礼文型教育連携 10 年の節目の年にふさわしい礼文町教育研究会研究大会兼全道へき地複式教育研究大会第 7 分科会を、小中高すべての学校の力あわせのもと、成功裡に終えることができました。授業公開や研究発表を行った学校はもちろん、準備や裏方に回って研究大会を支えてくれた学校もあり、オール礼文の力の結集で、礼文型教育連携について、全道に発信することができたと自負しております。礼文町教育研究会の活動として、年に 2 回の研究大会と年 7 回の一斉サークル活動で多くの授業公開が行われてきています。礼文型教育連携とともにこの授業公開を伴う研修が数多く行われていることも、礼文町研の誇りと思いますし、日々の実践が先生方の教師力向上に繋がっていると確信しています。

さて、昨年 12 月に中央教育審議会の答申が出されました。それを踏まえてこの 3 月に新しい学習指導要領が公示される運びとなっています。この度の答申では、「子供たち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身につけられるようにすることが重要である。」としています。「社会に開かれた教育課程」や「カリキュラム・マネジメント」、「アクティブ・ラーニング」などの言葉が一人歩きするのではなく、学校教育を通じて育てたい姿を明確にして、「生きる力」の理念の具体化のために、子供たちの「主体的・対話的な深い学び」が実現するような授業構築に取り組んでいくことが重要となっています。これは礼文町研が目指している保小中高一貫の教育にも十分通ずるものがあると考えています。

今後も礼文町教育研究会の活動が、「心豊かに学び　ふるさと礼文に夢と誇りをもって２１世紀をたくましく生きる児童・生徒の育成」の研究主題のもと、礼文町全教職員の資質能力の向上と併せて、「礼文町のすべての子ども達のため」充実したものとなることを期待して、「礼文の教育」発刊の挨拶といたします。

４月	◆総会 ◆サークル研修 ◆複式部会総会
５月	◆公開礼文検定 ◆クリーン作戦 ◆香深地区小中連携教育研究会 ◆船泊地区小中連携教育研究会 ◆サークル研修
６月	◆観光大使活動
７月	◆サークル研修 ◆夏の教育講座
８月	◆サークル研修

９月	◆町研船小大会 ◆合唱講習会 ◆サークル研修 ◆管内教育研究大会
１０月	◆公開礼文検定
１１月	◆サークル研修 ◆礼文学発表会 ◆町研船中大会
１２月	◆サークル研修
１月	◆冬の教育講座 ◆公開礼文検定 ◆理科実験教室 ◆香深地区小中連携教育研究会
２月	◆船泊地区小中連携教育研究会

礼文町立礼文小学校

平成 28 年度の礼文小学校は、2 年目となる研究テーマ「進んで読み取り、自分の考えをもつことができる子どもの育成～基礎・基本の定着を目指した授業づくりと課題設定や発問を通して～」のもと、子ども達の思考・判断の力を高めていくことを目指して、教育活動に取り組みました。一人ひとりが考えたり、友だちと交流したりすることを通して、子ども達は、自分の考えを深めることができました。

28 年度は男子 19 名、女子 21 名、計 40 名が在籍。年間を通し、∞(ハチヨコ)タイムとして、5 分間マラソンや、なわとびを全校で行い、さらなる体力の向上を目指しました。

6 月には「立ち上がれ～どんなときでも心をひとつに～」をスローガンに、運動会を開催しました。力一杯頑張った各種目や、昭和 37 年から始まり連綿と受け継がれている鼓笛隊の行進、各班それぞれの個性が光った応援合戦など、子ども達の元気溢れる見所いっぱいの運動会となりました。

練習は 1 年生から 6 年生で構成される、3 つの「縦割り班」にわかれて活動しました。6 年生を中心に自分たちの目標を考え、練習や計画作りを行い、練習が終わった後は、班のメンバーで集まり、新しい目標を立てたりします。高学年は立派にリーダーシップを発揮し下級生を励まし、それを見た中学年も自分にできることを考え、積極的に意見を出していました。低学年も上級生の話や指示をしっかり聞き、縦割り班の中でアドバイスし合いながら、3 週間の練習を最後までやりきりました。

礼文小では、このような「縦割り班活動」を通して、「教え合い、励まし合いの力」や「最後までやりきる力」を伸ばしています。

10 月には、「スマイル　～感謝の気持ちと笑顔を届けよう～」をスローガンに、学芸会に取り組みました。保護者や地域の方々への「感謝の気持ち」を「笑顔」で届けようと、子ども達皆が、「こうしたら良い」「ああしたほうがもっと面白くなる」と表現の仕方を工夫している姿が印象的でした。伝統の礼文太鼓を始め、劇、器楽、踊り、合唱と、たくさんの表現活動を通じて、子ども達は日々「表現する力」や「協力しながら考えて練習する力」を伸ばしていきました。

礼文小ならではの行事として、11 月のふれあいもちつき会があります。子ども達一人ひとりが招待状を書き、プレゼント作りや出し物を考え、当日は受付、お茶出し、席への案内といった役割分担をして、地域のおじいちゃん、おばあちゃんへ精一杯の「おもてなし」をしようと取り組みました。一緒におもちをついたり、お雑煮を食べたり、ゲームをする中で、子ども達だけでなく、地域のおじいちゃん、おばあちゃんからも笑顔が溢れるとても楽しいもちつき会となりました。

「縦割り班」で活動することが多いこの行事ですが、中心となって進める 6 年生と共に、半年後には学校の中心となる 5 年生が、リーダー修行として下の学年を仕切る場面を多くしながら取り組みを進めてきました。4 月からのリーダー達。来年度も頼りにしています！

また、準備においては、雑煮作りや餅米ふかし、餅つき等で保護者の皆さまのご協力をいただきました。他の行事も含め、全ての学校の教育活動と子ども達の笑顔は、地域・保護者の皆さんに支えられているのだということを改めて感じることができる行事でもありました。

礼文町立香深井小学校

健康な体を作り、鍛えることが好きな「元気な子」
優しい心を持ち、善悪を判断できる「明るい子」
意欲を持ち、学力を身に付ける「考える子」
進んで働き、友だちと協力する「頑張る子」

そんな子どもを育てたいと、開校 122 年を迎えた香深井小学校が、9 名の児童と歩んだこの一年のキーワードは「つながり」。小さな学校が大きな子育ての輪を紡ぎながら、地域の担い手を育むことを目指してきました。

つながりあいながら「授業の充実」を

今年度は、低学年が 6 名と多くまた、2･3 年、4･6 年複式という体制のもとスタートしました。その中でも、礼文検定や家庭学習にも真面目に取り組み、着実に基礎の力を付けてきた子どもたちにとって、次の課題は「自ら考え、より深く学ぶ」ための力を伸ばし、「人と関わり合いながら学ぶ」経験を積み重ねることです。

3 年次を向かえた学校研究では、学級や学年、学校をこえた交流や教材の工夫を取り入れながら、少ない人数でも多様な考え方に触れることができる授業づくりに取り組んでいます。また、校長先生を含めた全教員が授業を担当しており、より一層の研修の充実を目指しています。

つながりあいながら「心の教育」を

香深井小は、全校や縦割りグループでの活動をたくさん取り入れ、校風に掲げた「思いやり」の心を育む教育実践を進めています。校種をこえた交流も、中学校や高校はもちろんのこと、保育所とも春の花壇づくりを皮切りに、年間を通して実施しています。

つながりあいながら「心の教育」を

香深井小は、全校や縦割りグループでの活動をたくさん取り入れ、校風に掲げた「思いやり」の心を育む教育実践を進めています。校種をこえた交流も、中学校や高校はもちろんのこと、保育所とも春の花壇づくりを皮切りに、年間を通して実施しています。

香深保育所への読み聞かせ訪問は、開始から５年目を迎え、国語の学習にも位置づけると同時に、相手のこと

つながりあいながら「ふるさとへの愛着」を

「地域を明るくしよう！」を合言葉に取り組んだ見内神社祭での鼓笛パレード。今年度は、低学年が多くまた運動会の日程と近かったのですが、毎日の練習を頑張り、当日も心ひとつの演奏を届けることができました。香深井小には、地域から愛されているこんな活動がいくつもあります。

礼文の郷土芸能「礼文太鼓」も長く取り組んでいる活動の一つ。運動会や学芸会、町のイベントで練習の成果を毎年発表しています。今年は、初めて海峡まつりで披露しました。また、全校で取り組んでいる民舞「よっちょれ」は礼宝園や内路神社祭で演舞し、入居しているお年寄りの方々や地域の人達に喜んでもらいながら交流を続けています。

礼文の特色ある教育の一つ「礼文学」ではここ数年、リシリコンブが香深井小の学習のテーマです。地元の漁師さんの協力で、昆布養殖の仕事を全校で学ぶことができています。また、今年度は３年生以上が礼文の花をテーマに高山植物園の職員の方にお話を聞いたり、自ら観察に行くなどの活動を行いました。地域の方々や保護者の応援を得ながら、「ふるさとに学ぶ」教育の充実を香深井小は今日も目指しています。

『地域と歩む小さな学校』香深井小学校の毎日は、学校ホームページの「おとな日記」「こども日記」で

礼文町立香深中学校

香深中学校の校訓「考える・思いやる・鍛える」を柱にしてこの一年様々な事に力を注いできた香中生の取り組みと、そこから得た学びをご紹介します。

～地域から得た貴重な学び～

「香中といえばね、やっぱりソーランだよ！」
礼文島に越して来たときに地域の方から頂いた言葉です。
１年を通して披露の機会に恵まれ、たくさんの歓声や温かい声掛けを頂きました。いつもは真剣な表情で演舞をしていますが、扇子を広げた瞬間の大きな歓声が嬉しく、思わず笑顔になった生徒もいた程です。
ソーランの他、校外班活動や祭典、フラワーマラソンなど普段の学校生活でつけた力を見て、評価してもらうという貴重な経験を重ねることで、生徒たちはやりがいを感じ、努力することの大切さや感謝する気持ちを学ぶことができました。

礼文の自然からもたくさんの学びがありました。１年生の遠足では水産業や植物について詳しく説明して頂き、自然の恵みの大切さを改めて実感しました。

また、自然を守り私たちに届けてくれる人たちの努力を知り、普段当たり前に見たり食べたりしている礼文の自然はとても貴重なものであるということを学びました。
２年生は稚内で、３年生は札幌で、それぞれ礼文島の紹介をしてきました。「給食でホッケがでるなんてすごい」「景色がきれい」「あつもんがかわいい」「知らなかった特産物がたくさんある」などの感想を聞いて、これまで気が付かなかった礼文の魅力を再発見する機会となりました。
地域と学校があまり隔たり無くつながることができるのは礼文の誇りだと思います。そこから得る学びは生徒の成長にとって、とても大切なものです。これからも地域の「人」や「自然」の力を借りながら、たくましく生きていく力をつけていきたいと思います。

～着実に力をつけ、成長していく香中生～

―学習編―

香深中学校の授業研究テーマは

「子どもとともにつくる授業～すべての子どもに基礎基本の定着を目指して～」です。どの生徒もしっかりと参加ができ、力のつく授業づくりを目指して「全員参加」をキーワードとして授業改善に取り組んできました。

香中生はどの授業でも関心をもって真剣に授業を受けています。なので、どんな活動を取り入れてもみるみると吸収し、力をつけていきます。

話し合いや発表の経験を通して、堂々と自分を表現できるようになったり、黙々と問題を解いていくことを通して長い時間集中できるようになったりと目に見えて成長していることがわかります。

全ての生徒が、頑張りを結果につなげられるようこれからも授業づくりの改善に励んでいきます。

―行事編―

香中の行事は、学年をまたいだメンバーでチームを構成する「縦割り」での活動が主体となります。

経験豊富な先輩が、後輩たちを先導して自分達でつくりあげ、成功させていきます。行事を終える度に一皮むけてたくましく成長している姿はとても頼もしいです。

また、見てくださった方々からの激励の言葉も生徒たちの自信につながっています。

この他にも、部活動、食育、性教育、等々、たくさんの経験を積み重ねてきました。これからも「自分の人生を自らの手で切り開いていける生徒」の育成を目指して職員一同尽力して参ります！

香深地区の教育連携

「のびる」プロジェクト

香深地区では「ドリームマッチ」という乗り入れ授業がここ数年で定着。中学校の先生が小学校へ出かけて勉強を教えています。より専門的な学習を楽しく子どもたちは体験することができ、進学への不安の解消にもつながっています。中学校の先生やALTを迎えての礼文小と香深井小の外国語の合同授業も定期化。地域ぐるみで長い時間をかけて子どもたちの学力を伸ばしていくと同時に、教師自身の研修の場となっています。

また、小小交流も今年度は６年生以外の学年でも、活発に授業が行われ、香中に入ったときには、最初からお互いがわかり合っている中で、中学校生活がスタートすることができています。

「ひろがる」プロジェクト

今年度は新しい取り組みとして、礼文高校・町研英語サークルの力も借りながら、礼文高校へ小学生と中学生が行って、ハロウィンに合わせて、「ジャック・オ・ランタンづくり」を行いました。礼文高校の全面的な協力もあって、当日は、高校生が、中学生や小学生にやり方を説明してくれて、色々な学校の子たちが集まりながら楽しく取り組むことができました。

また、継続して行っている、小学生から中学生へ中体連に向けた応援メッセージ、中学生から小学生へ卒業式に向けたメッセージ、小中学生合同のおたより配りも行い交流を深めています。

「つながる」プロジェクト

例年、香深地区、香深井地区と２会場で行っていた地区別懇談会を今年度は香深地区３校合同のＰＴＡ子育て懇談会として開催しました。交流の内容は、中学校卒業までに身につけさせたい力についてを重点に日頃の子育てに関する悩みや意見などを交流しました。こちらも中学校では同じＰＴＡ会員として、教委育や子育てについて交流を深めることができました。

香深地区小中連携教育推進協議会は、５月には中学校、１月には小学校を会場に研究大会を開催し、授業交流と分科会による協議を行っています。活動の計画づくりや総括を通して、各校の教育実践が、一貫性と一体感を持って進んでいくよう、よりよい連携のあり方を追求しています。

礼文町立船泊小学校

自然豊かな環境で、伸び伸びとおおらかに過ごしている本校児童をどのように育てていくか。絶対条件として、義務教育６年間（９年間）の学びを確かなものにすること。その学びが能動的であること。

船泊小学校には、礼文検定の取り組みや評価による基礎基本の定着と、学習規律の共通化を図り、全教職員で取り組んできたこれまでの学校研究財産がある。このようにしっかりと積み上げた土台の上に、教師の手許を離れた後も、時代に順応しながら生き抜いていく子どもたちの幸せを保証する力を育てたい。

そのために本校では２７年度から、「自分の考えを持つこと」「他者とコミュニケーションを図りながら問題を解決していくこと」を軸に授業を作り、学校研究を進めている。

小さな島の中、クラス替えのない環境でも、多くの人と関わり合いながら自分の意思を持ち、たくましく生き抜いていく将来の大人を育てていきたいと思っている。

研究の全体構想図

研究主題

自分の考えをもち，伝え合い高め合う子どもの育成

～論理的な思考力を高める授業づくりの工夫～

授業で目指す子ども像

話し合って深める子

考えを伝え合う子

進んで考える子

《仮説１》「自分の考えをもつ」

課題把握や課題解決の段階において，自分で考えるための手立てを積み重ねていくことで，自発的・能動的な意欲や好奇心，思考スキルを伴った思考活動が見られ，思考力が高まるだろう。

《仮説２》「練り合う」

課題解決の段階において，自分の考えを表現したり，交流したりする仕方を充実することで，考えを深めることができるだろう。

研究内容

・思考スキルを位置づけた授業づくり
・学習過程の工夫
■課題提示の工夫　■個に応じた支援
■学習形態の工夫　■まとめ・振り返りの設定
・評価の工夫

・伝え合う，話し合う活動の位置づけ
・自分の考えの表現，説明的活動の充実
・根拠を明らかにした発表の定着
・話し合わせ方の工夫（教師の意図を明確に）
・実態に応じた学習形態
・言語活動の工夫

船小のたからもの…

島の学校は学年団が組めない。又、若い先生や経験の浅い先生も多く、少ない人数の中懸命に将来の大人を育てている。『素直な子をそのまま預かる』ではなく、より良く賢く育てるために！！と考えると悩みがつきない。

そこで、船小では『校内研修』と教務部と連携した『学担会議』という宝物がある。子どもの様子は勿論、行事の取り組ませ方、学級通信のかき方、所見のかき方を学んだり、今年度は、特別支援コーディネーターの小松先生や石松先生から特別支援教育の現状を学んだりして力量アップを図っている。

また、先生たちの日常の頑張りや学びの資料などは『研修通信』で全員に周知して交流している。教職員の力量アップが、必ず子どもたちにかえると信じて今後も「プロとして高め合える楽しい集団」を目指していく。

子どもたちの６年間の学びを確かなものにして、
小さな島の中、クラス替えのない環境でも、
多くの人と関わり合いながら自分の意思を持ち、
たくましく生き抜いていく６２名の子どもたちを
全教職員で育てていく。

毛筆講師の

星野先生

８月２５日　『毛筆』実技研修
最後には校長賞・教頭賞・星野賞 有り
みんなでコツを学びました！！

礼文町立船泊中学校

平成２８年度、船泊中学校は、『基礎基本の定着を図り、豊かな心と逞しい体を育み、地域とともに生きる喜びを創造する学校』を重点目標に、「生徒一人一人が自己存在感を持ち、安心して過ごせる心の居場所となる学校」「全教職員が協同し、持ち味が随所に活かされ、組織的で働きがいのある学校」「生徒、保護者、地域住民に広く開かれ、協力体制が確立された信頼される学校」をめざす学校像として、生徒はもとより保護者や地域住民の期待に応える学校経営や教育活動を展開してきました。

その中でも、伝統の「よさこいソーラン」による全校集団づくりを教育活動の大きな柱に位置づけ、日頃お世話になっている皆様への感謝の気持ちと元気一杯の船中生の姿を発信することができました。

平成２８年度、船泊中学校の部活動は、４つの部活（男子卓球部、女子卓球部、女子バレー部、野球部）で活動してきました。バレー部は香深中学校と沓形中学校との３校合同チームとして活動し、野球部は香深中学校との２校合同チームでの練習や大会への出場となりました。

７月に行われた宗谷地区中体連球技大会では、どの部活もチームの目標に向かい、協力して精一杯プレーをすることができました。その中でも、男子卓球部は団体戦で見事に優勝し、八雲町で開催された全道大会に出場することができました。団体戦での全道大会への出場は、船泊中学校設立以来の快挙でした。

８月からは、３年生が引退し、野球部は３名、男子卓球部は８名、女子卓球部は３名、バレーボール部は１名で活動を続けてきました。どの部活も地道に練習を続け、少しずつ練習の成果が現れ、力をつけてきています。来年度の船中の部活が益々楽しみです。

＊平成２８年度、船泊中学校への温かいご支援やご協力をいただき、本当にありがとうございました。今後も保護者や地域の皆様の期待にお応えできるよう、より一層頑張っていきたいと思います。引き続き船中へのご支援をよろしくお願いします。

受け継がれる船泊地区の教育

【船泊地区小中連携教育推進協議会の活動について】

◇船泊地区の小中連携を推進しているのが、船泊地区小中連携教育推進協議会です。この協議会は、次の３点をねらいに活動を進めています。

① 船泊地区小中学校９年間を通じ、子ども達一人一人に学力や体力などを育てる。
② 船泊地区小中が協力して、学校力と教師力を向上させる。
③ 小中学校 PTA で学校支援や教育参加をすすめ、家庭力と地域力の向上を図る。

この協議会には、船泊地区小中の先生方が全員参加しており、また、全員が４つのプロジェクトチーム（学びプロジェクト・ハートプロジェクト・健康プロジェクト・PTA 地域プロジェクト）に所属し、語り合い、学び合いを大切にしながら様々な取り組みを行っています。

① 船泊地区小中連携教育研究会の開催

◇年に２回の研究会を開催しています。５月は船中を会場に、２月は船小を会場に、授業交流や話し合いが行われます。プロジェクトチームごとに集まり、一年間の活動の反省と新年度の計画づくりも行われました。学校力や教師力を高める絶好の機会となっています。

② 授業づくりや学力向上の取り組み

◇小中連携という意味でも、日頃から各校お互いの授業を積極的に参観し合う関係が築かれています。
◇礼文検定の連携という点では、小中で継続した合格証を活用し意欲を高めています。今年度は船中体育館で年３回の公開礼文検定を実施し、毎回４０名程の児童生徒が参加しました。
◇中学校教師が小学生に授業を行っています。今年度は２月１５日に中学校の川田教諭が６年生の合唱指導をしました。同じく香川教諭が船小５・６年生にスキーの指導をしました。小中の授業交流は、４月から中学生になる６年生が中学校の先生方を事前に知る良い機会にもなっています。
◇「教える」だけでなく、子どもたちから「教わる」視点も大切にしながら、より良い授業づくりや学力向上を目指して、今後も小中の先生方が連携・協力して取り組んでいきます。

③ 健康と体力向上の取り組み

◇「体力カルテ」には、体力テストやフラワーマラソン等の結果がファイリングされています。子どもたちには、「体力カルテ」を励みに、たくましく挑戦を続けてほしいと願っています。
◇「体力テスト」を１・２学期に小中学校それぞれが実施し、データを分析しました。その結果を体力向上の取り組みに生かせるよう工夫しました。少年団や放課後マラソン参加者の記録向上が顕著になったという結果も得られました。

④ 安全教育での協力体制

◇春と秋の交通安全週間に合わせて、小中学校で日程や場所を調整し、６か所での街頭指導を実施しました。これからも子どもたちの安全を見守っていきたいです。

⑤ 運動会への真心の激励

◇６月に行われた小学校の運動会では中学生がＹＯＳＡＫＯＩを披露し、８月の中学校の運動会前には、小学生が応援の気持ちを込めてグランドの石を拾いました。今後も、小中の結びつきを強め、お互いを励まし合える活動を広げていきます。

⑥ 小中 PTA の強い結びつきの『絆』づくりをめざす取り組み

◇５月には、小中 PTA 合同で、グランド整備を行いました。たくさんの保護者の皆様が参加してくださり、無事に作業を終えることができました。作業後に行った懇親慰労会では、PTA の親睦を深めることができました。恒例のソフトボール対決にも、多くの父母の方々が参加し、盛り上げてくださいました。珍プレー好プレーが続出する楽しいひと時を過ごすことができました。
◇１１月１２日には、第２回船泊地区小中合同スポーツ交流会が開催されました。総勢４５名が船中体育館に集まりシャッフルボードとミニバレーの２種目で熱戦を展開しました。その後の懇親会では、一層の交流を深めることができました。
◇このように、船泊地区小中の保護者や先生方が一堂に会してお互いの声に耳を傾け、交流することは、地域のネットワークづくりには欠かせないことです。今後も心豊かに楽しい交流を進めていきたいと考えています。

北海道礼文高等学校

地域に開かれ、一人ひとりの成長を支える教育活動を実践しています。

１．礼文町海外交流事業

平成２４年度より礼文町のご支援をいただき始まった「礼文町海外交流事業」。５回目の今年度は１学年７名の生徒が９月１７日（土）から１０月１日（土）までの約２週間、アメリカ・カリフォルニア州ロサンゼルスで現地高校生等との交流や、自然環境の在り方や国立公園の活用等について研修を行いました。また、今年は事業５周年を記念してのレセプションがあり、夏休みに練習したヨサコイを披露しました。

２．遠隔授業システム（文部科学省研究開発学校）

昨年度より文部科学省の指定を受け、テレビ会議システムを用いたインターネット配信による遠隔授業を実施しています。本校では４科目が対象になり、現代文Ｂは岩内高校、数学Ｂは倶知安高校、英語表現Ⅰは釧路湖陵高校、書道Ⅰは有朋高校から授業配信が行われ、実施されました。

３．環境教育（ユネスコスクール）

礼文の環境を活かし、豊かな心を育んでいます。また、ユネスコスクール登録校としてＥＳＤ（持続可能教育）の理念に基づく教育活動を展開しています。

〔・礼文の自然や環境変化についての観察研究・自然保護と自然の活用についての調査研究等〕

４．進路指導

様々な活動を通して、個に応じたきめ細かな指導により進路実現を図っています。

（１）ＳＵＴ（スキルアップタイム）

・毎週水曜日の放課後、全校生徒が進路実現・資格取得・基礎基本の定着を目標に学習を行っています。

（２）取得できる資格（礼文町からの支援を受け、受験料は免除となります）

漢字能力検定　英語検定　危険物取扱者丙種・乙４類　数学検定
ニュース時事能力検定　ビジネス文書実務検定　情報処理検定　簿記検定

［海外交流事業］　今年度は、７日間のホームステイと現地の高校生や中学生と様々な体験活動を通しての交流や英会話レッスンを行いました。また、海外交流事業５周年を記念したロサンゼルスでのレセプションや現地の中学生や高校生等の前で「よさこい」を披露しました。デスバレー国立公園などを見学し、日本の国立公園である礼文島についても考えることができました。在ロサンゼルス日本総領事館では英語での礼文島ＰＲプレゼンテーションなども行いました。

［遠隔授業］　文部科学省からの指定を受け、現代文Ｂ・数学Ｂ・英語表現Ⅰ・書道Ⅰで遠隔授業を実施しています。今年度も遠隔授業を通して普段の授業とは異なる環境で緊張感のある授業を展開することができました。

［環境教育］　学校設定科目の高山植物では、礼文島自然情報センターの協力を得て高山植物を植えた礼高花壇を利用し、手で触れながら授業を行いました。また、授業で学んだことを活かし、桃岩展望台ボランティアガイド行いました。今年度は小樽市、東京都在住のご一家４名を高山植物の花ガイドや礼文の地形などを話しながら案内をしました。

［学校行事］

入学式

礼高祭

見学旅行

※本校の日常の教育活動は礼文高校ホームページにおいても閲覧できます。
アドレス：http://www.rebun.hokkaido-c.ed.jp

礼文町立香深保育所

保育目標　【元気で明るい子】

☆ 戸外で元気に遊び、自然に親しむ。
☆ 保育者や友達と積極的に関わる気持ちを育てる。
☆ 遊びのルールを守り、仲良く遊ぶ。
☆ 自分の身の回りのことは自分でしようとする。

礼文島の豊かな自然に囲まれて四季を体感し、心身ともに健やかに育んでいます。

集団生活の中で社会のルールやお友達との関わり方、基本的生活習慣を学びます。昔から伝わる伝承行事、地域で行う社会行事、保育活動で行われる園行事と様々な経験を積み重ねます。毎日うんていや縄跳びに取り組み、体力づくりをしています。また、「よさこい」の踊りは１１年目となり、年長組から未満児クラスまで鳴子を通して伝統をつないでいます。挑戦し、できることが増えて達成感を感じる香深保育所っ子です。

「認めて・ほめて・愛して・抱きしめる」保育で「思いやり」の心を育て、個々の可能性を引き出していけるよう、多方面から手を差し伸べています。

礼文町立船泊保育所

元気で、笑顔いっぱい！

　にこにこ笑顔がとっても素敵な船泊保育所の子どもたち。
　大好きなお友達とは毎日汗だくになって動き回り、泣いたり笑ったり生き生きと元気いっぱいです。

　一年を通して、季節ごとの行事を知り、日々の生活の中で思いやりのある優しい気持や何事も諦めないで頑張る気持ちが育つよう、保護者の方々や地域の方々の協力を頂きながら保育にあたっています。

　よく食べ、よく寝て、おもいっきり遊び、恵まれた自然環境のなかですくすくと育ってほしいと思います。
　また、将来は自分のことも友だちのことも大切にできる人になってほしいと願っています。

町研サークルの活動から

礼文町研は、会員相互が自由な発想のもとに学び合う場として、サークル研修を行っています。28 年度は次の 11 のサークルが開設されました。

①国語	②算数・数学	③社会	④理科	⑤保健体育	⑥外国語
⑦音楽	⑧図工・美術	⑨特別支援教育	⑩学校事務	⑪健康教育	

各サークルは年７回の一斉活動日を基本に、必要に応じて公開授業などの自主活動日を設けながら精力的に活動を進めています。また、「サークル通信」が町内全校に向けて発行され、研修の交流も行われています。

すぐに活かせる研究を

町研サークルの一番の利点は、研究を日頃の授業にすぐ活かせることです。島外での研修ももちろん勉強になりますが、規模や環境の違いから、日頃の授業に活かしきれないこともあります。規模も地域も同じ環境での実践交流はすぐに活かすことができ、その結果を交流→改善→また実践…と授業のレベルアップを重ねることができます。

体験を通して生徒の気持ちを実感

芸能教科のサークルでは、実技研修を積極的に取り入れています。例えば音楽サークルでは「リズムをつくろう」「作曲をしてみよう」というテーマで実際に教科書に載っている題材を使って創作活動を行いました。また、体育サークルでは小学生と一緒にキックベース（ハンデあり）を行いました。このように授業を受ける側として参加することで、生徒はどんなことを感じながら授業を受けているのかを体感することができました。

この他、社会科サークルの郷土資料館の見学、理科サークルによるフィールドワークなど、地域の教材化を目指した体験活動もサークル研修の中で行われています。

小学生と一緒にキックベース

小中高生が集まってハロウィンイベント

サークル発の文化活動

音楽サークル発の「合唱講習会」では、町内の小中学生が一斉に集まって、合唱の練習をします。普段の授業では味わえない大人数での合唱は厚みがあり、気持ちよさそうに歌う表情が印象的でした。ここで練習した曲は「はちまる交流会」でも披露しました。みなさまいかがだったでしょうか。

理科サークルは冬に「理科実験教室」を開催しています。香深地区と船泊地区の２箇所で行われるこのイベントでは、サークルのメンバーが４～５のブースに分かれ、楽しい物づくりや実験の機会を提供しています。

子どもたちが楽しそうに参加している様子を見て、それぞれの分野の魅力を改めて実感することができました。

掲示物作成について交流中の
健康教育サークル

授業実践交流中の特別支援サークル

縁の下の力持ち　事務サークル

礼文の子どもたちの健康のために！

健康教育サークルは養護教諭や栄養教諭によって構成されています。日常の実践や健康診断の結果を交流したり、島外での研修報告を行ったりしています。その中で出てきた「デジタルヘロイン」という言葉。みなさん知っていますか？現代はシンナーやアルコールにかわってネット依存、ゲーム依存が深刻であり、それによって起こる睡眠障害、抑うつ状態、社会恐怖、人格形成への障害などを表現する言葉だそうです。こんな新しい情報も取り入れながら、子どもたちの健やかな成長を支えます。

教職員全体で礼文の教育を支えます

町研サークルの活動は、学び合いの場というだけでなく、保小中高による一貫教育を目指す「礼文型教育連携」の実践づくりの場ともなっています。

職種や分野はそれぞれ違っても、全ての教職員が一丸となって、礼文の教育発展のため努めていきます。

実践研究の２つの柱から

礼文型教育連携の研究は、第４次計画のスタートとなりました。多様な実践が生まれてきた中にあって、「礼文検定」と「礼文学」は研究開始当初から全ての学校によって取り組まれてきた研究の柱です。

学びがつながる。学びでつながる。

礼文検定のテキスト「基礎学力養成問題集」は 26 年度までに４度の改訂が行われ、礼文の子どもたちの底力を支える教材として定着しています。32 年度の新学習指導要領完全実施に向けてテキストの改訂も検討が必要です。

力試しの場として定期的に行う礼文検定は、基礎の「学力づくり」ばかりでなく、学び合い・励まし合いを通した「集団づくり」のねらいのもとに取組が進められています。各校に見られる学級や学年、全校の目標掲示や、香深中で続いている「礼検オリンピック」はそうした中で生まれた工夫の例です。

年に３回計画されている「公開礼文検定」は、検定前に小中学生による学び合いの時間をとり、その後で検定を行っています。船泊地区ではそれをさらに一歩進め、簡単な交流レクを行うなど工夫した活動をしています。

各種調査の結果からは、礼文の子どもたちに基礎学力が一定に身についていることや、小学校から中学校へ進学する際の不安が少ないことが明らかになっています。礼文町研では基礎学力連携部会を中心に、学力検査のデータ等も今後は分析しながら、礼文の子のその後にも注目し、礼文検定の工夫・改善や一貫性のある教育課程づくりの研究を進めていきます。

ふるさとを学ぶ。ふるさとに学ぶ

ふるさとと自分に誇りを持ち、たくましく生きる未来の担い手を育てる「礼文学」は、小学校から高校までを見通した系列表を計画の基本に、各校がそれぞれユニークな学習を展開。礼文の自然や暮らし、産業にちなんだテーマを地域の人たちと直接関わりながら学習し、その成果を礼文学発表会などで広く発信しています。

今年も観光大使活動が各校で行われ、礼文の魅力や産業などを PR しました。香深井小の活動では、道外の方から手紙が何通も来て、香小昆布の味に絶賛をいただくなど活動の励みとなりました。

また、小中高生が一斉に集って行われるクリーン作戦では、高校生が中心となり、各地区ごとに清掃活動を行い、地域の一員として、地域に貢献する機会となりました。

【29 年度の礼文学発表会での発表内容】

礼文小	観光大使活動に向けての学習
香深井小	礼文に咲く花について
船泊小	野鳥観察　久種湖周辺の野鳥たち
香深中	３年間の礼文学のまとめ
船泊中	３年間の礼文学のまとめ
礼文高	①見学旅行での取り組み ②国際交流事業報告

11 月に行われる礼文学発表会では、全ての学校から１年間の取組が報告されています。発表会は地域からの協力への感謝の意味も込めて、町民に公開されています。

ここ数年は、町の支援を受けて実施されている礼文高の国際交流事業の報告にも注目が集まっており、小中高と視野を広げていきながらふるさと礼文を学ぶ「礼文学」の一つの到達点として、その内容や発表が評価されています。

児童・生徒の作品＜美術部門＞

礼文小学校　１年　工藤　美優
「ホイールローダー」
準特選

礼文小学校　３年　川野　碧斗
「泳ぐしゃけ」
準特選

礼文小学校　６年　金田ーみづき
「海のある風景」

香深井小学校　２年　百瀬　拓海
「ホイールローダー」
準特選

香深井小学校　３年　山本 麻埜
「昆布を切る人」

香深井小学校　６年　八木　陽花
「厳島神社」
特賞　稚内信用金庫礼文支店長賞

船泊小学校１年　澁谷　柚華
「タコ」
特選　文化協会長賞

船泊小学校４年　三浦　迅
「湯のみを見る」
特選　文化協会長賞

船泊小学校４年　柳谷　亜加音
「笛をふくあたし」
特賞　礼文ﾛｰﾀﾘｰｸﾗﾌﾞ会長賞

香深中学校　２年　鈴木　仁愛
「陽が照らす山」
特選　文化協会長賞

香深中学校　３年　本間　里緒
「夏の葉」
特賞　船泊漁業協同組合長賞

船泊中学校　１年　佐々木　望彩
「たそがれ」
特選

船泊中学校　１年　築田　玲佳
「のどかな島」
特選

船泊中学校　１年　高道　築
「砂場のオーケストラ」
特選

船泊中学校　３年　加藤　夏海
「喜怒哀楽」
特選　町長賞

香深中学校　３年　成田　百伽
「見慣れた景色」
特選　町長賞

児童・生徒の作品＜書道部門＞

礼文小学校　２年　久保　花稟

礼文小学校　４年　柳谷　吏杏

礼文小学校　５年　佐々木　夏実

香深井小学校　２年　熊木　なな

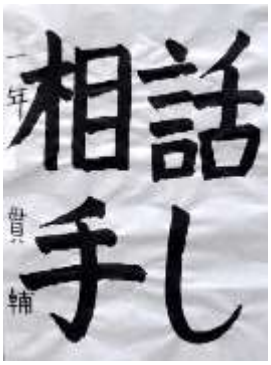
香深井小学校　２年　藤田　颯

船泊小学校５年　高道　琳理

船泊小学校５年　木戸　つむぎ

香深井小学校　４年　東　真央

船泊小学校６年　柳谷　壮英



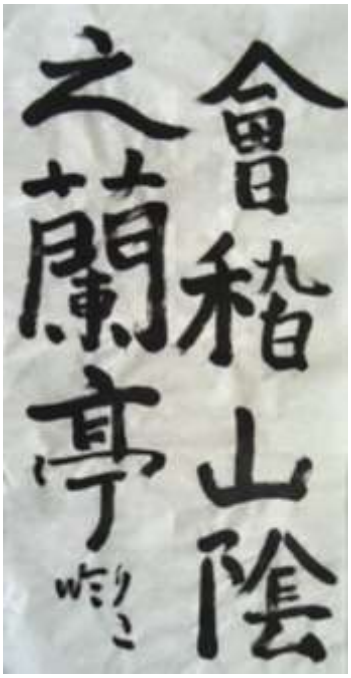
香深中学校１年　川村　貫輔

香深中学校２年　武田　瑛那

香深中学校３年　成田　百伽

船泊中学校１年　佐藤　真緒

礼文高校１年　支部　美紀



礼文高校１年　高木　りこ

礼文高校１年　室矢　茜

礼文に来て１年…28年度新採用の先生の声

礼文島に来て１年が経とうとしています。期待と不安を胸に抱いて島に向かった日のことが、昨日のことのように感じるくらい、あっという間の１年でした。礼文島に来た当初は、島での生活や仕事についてわからないことだらけで、多くの不安を抱えていましたが、先生方や他校の事務の方、地域の方々の優しさのおかげでなんとか１年間を過ごすことができました。礼文の方々には多くの事を教えていただき大変感謝しております。

来年度はもっと多くの事を学び、知識を活かして礼文町の教育のために一生懸命頑張っていきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

礼文小学校　坂田　裕太郎　先生

礼文島生活をしてもうすぐ１年がたちます。初めは様々な不安がありましたが、先生方や生徒達、地域の方々のおかげで楽しくこの１年を過ごすことができました。私生活では周りの方々に礼文島について教えて頂きながら、礼文島の魅力にたくさん触れることができました。仕事の面では、分からないこともたくさんありましたが、周りの先生方に支えられながら、多くのことを経験させて頂きました。いずれにしてもこの１年間は本当に周りの方々に支えられてばかりの１年であったなと思います。次年度も日々学びながら、より一層成長できるように努めていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

礼文高校　佐林　卓　先生

時間の大切さを感じた１年になりました。自分のために生きてきた22年間でしたが、社会人になったこれからは、誰かのために生きていかなければならないと感じています。毎日寝ても覚めても教育のことを考えていられることが幸せで、教育に携われる職業に就けて本当に良かったと思っています。これは礼文の子どもたちや地域、職員の方々に恵まれ、支えられているおかげです。私が礼文でできること、求められていることにどんどんチャレンジして少しずつでも応えていきたいです。きっとあっという間の教員人生、毎日を大切に、今に満足することなく目の前の子どもたちと成長を続けていきます。今後ともよろしくお願いします。

礼文高校　阿部　広暉　先生

１年前の３月、礼文に赴任が決まったと電話をいただき、驚いたのと同時にとてもワクワクしました。どんなところなんだろう、どんな暮らしなんだろう、そしてどんな生徒達なんだろう、と思いを巡らしながら赴任までの毎日を過ごしていました。

島に来てからは、学校や町の行事でバタバタと過ぎていく毎日ですが、船泊中学校の生徒や先生方、そして地域の人たちととても充実した毎日を過ごしています。これからも自分が為すべきことを意識し、礼文・船泊に尽くせるよう１日１日一生懸命に過ごしていきたいと思います。

船泊中学校　香川　拓郎　先生

礼文島に来て、もうすぐ１年になろうとしています。長年千葉県に住んでいて、北海道しかも島の暮らしに不安を抱えながら赴任をした私でしたが、学校の教職員の方々や地域の方々などに様々な面において、気にかけて頂き、何とか今日までやってこられました。仕事面では、自分の仕事がある中、模擬授業などに多くの先生方が積極的に参加していただいたことで、自信をもって授業に臨むことができ、改めて教師の魅力などを感じることができました。来年度は今年以上に様々なことに挑戦して、一歩ずつ教師としての自分を高めていきたいと思います。

船泊中学校　上田　雄大　先生

子どもたちや周りの先生方、地域の方々に助けてもらいながら毎日を精一杯生きてきたら、あっという間に１年が経ち正直驚いています。ですが、学校生活を通して１歩ずつ成長していく子どもたちを見て、私も負けないくらい教師として力を伸ばしたいと再認識することができる１年になりました。来年度も若さを全面に出していきながら、頑張っていきたいと思います！

船泊小学校　安田　小春　先生

船を降り立った直後に島を出る先生方を見送り、わけもわからないまま旗を持って走った４月から、もうすぐ１年になります。島に来るまでは、それまでの生活との環境の違いに不安を感じることもありましたが、周囲の先生方や地域のみなさまの温かい気遣いをいただき、今日まで楽しく生活することができています。

また、仕事の面でも、保小中高連携や礼文学など礼文ならではの教育活動に新しい発見や刺激を得ることができました。今後も、この礼文の子どもたちのために力を尽くしていけるように頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

香深中学校　髙橋　彩香　先生

編集後記

町研広報紙「礼文の教育」を町民の皆様にお届けします。

部員一同、例年以上に詳しく、読みやすい紙面づくりを心がけました。礼文の先生方や子どもたちの頑張りを少しでも皆様に身近に感じていただければ幸いです。

今年度も礼文町教育研究会に教育関係者を始め、各校保護者ならびに地域の皆様、そして礼文町に多大なご支援、ご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

【礼文町教育研究会広報部】

本田　辰也（香深井小）
三浦　圭介（礼文小）
石松　宣彦（船泊小）
根塚亜沙美（香深中）
根塚　幸生（船泊中）
田代　智志（礼文高）

さらなる 10 年へ。

礼文町教育研究大会

2017年10月31日（火）

公開校　礼文高校

2017 年11月22日（水）

公開校　礼文小学校　香深井小学校